

自分の家を建て直した。

その人は森で木を伐り、



先祖になる

『蟻の兵隊』『延安の娘』池谷 薫◎監督作品



岩手県陸前高田市在住、佐藤直志 77歳の震災後を描いた
愛と勇気のドキュメンタリー。

2013年
ベルリン国際映画祭
エキュメニカル賞特別賞

2013年
香港国際映画祭
グランプリ

平成25年度
文化庁映画賞
文化記録映画大賞

プロデューサー●権 洋子 | 撮影●福居正治 | 録音●青田直也 | 編集●田山晃一 | 音響構成●渡辺丈彦 | HD編集●椿 学 | スチール●増池宏子 | デザイン●渡辺 純
製作・配給●運ユニバース | 宣伝プロデューサー●市川 篤 | 宣伝●PALETTE | 助成●文化芸術振興費補助金 | 2012年●日本●カラー●デジタル●118分●ヴィスタ | © Ren Universe, Inc.

senzoinaru.com



家が流されたらまた建てればいい 大昔から人はそうやってこの土地で生きてきた

男の名は佐藤直志。岩手県陸前高田市で農林業を営み、仲間から“親分”と慕われている。彼の家は1000年に1度の津波で壊され、消防団員の長男は波にのまれた。生きがいを失った男に何ができるのか？直志はひとつの決断をくだす。元の場所に家を建て直そうというのだ。自分はきこりだ。山に入って木を伐ればいい。友人から田んぼを借り、

田植えもしよう。仮設住宅には何があってもいらない。土地に根ざし、土地に生きる人々の行く末を想う彼の強さと優しさは、少しずつ周囲を動かし、生きることの本质を問いかけていく。忍び寄る病魔、耐えがたい腰の痛み、遅々として進まない市の復興計画……。数々の障壁を乗り越えて、77歳の彼は夢をかなえることができるのか――。

大ヒット作「蟻の兵隊」につづき“老人力”全開のガンコ親父を 池谷薫監督が見つめたヒューマン・ドキュメンタリー

本作は、中国残留日本兵の悲劇を描いた傑作ドキュメンタリー「蟻の兵隊」が異例のロングラン・ヒットとなった池谷薫監督の最新作。震災からひと月後に陸前高田を訪れた撮影チームは、そこで佐藤直志というひとりの老人と運命的な出会いを果たす。復興への夢を語る彼の姿に見惚れた池谷は、前作に引きつづき孤軍奮闘する“ガンコ老人”を追うことを決意。寄り添うように撮影を重ね、困

難に屈しない“日本人の底力”を描き出していく。撮影期間1年6カ月。東京～岩手往復の走行距離は5万キロに達した。頑強な肉体と茶目っ気たっぷりのユーモア。枯れた中にも残り香のように漂う男の色気。観るものにとりこにする主人公の姿は、戦争や災害から立ち直ってきた“日本人”とは何なのか、人が生きていくとはどういうことなのか、静かに語りかけてくる。



<http://senzoinaru.com>

入場料 1000円(自由席) 上映時間/118分

穂の国とよはし芸術劇場 アートスペース (200席)

「先祖になる」監督◎池谷 薫 | 主催◎ルートNO1企画 | 協賛◎豊橋日独協会

2014年 **7/7**月 4/13より発売開始
1回目・13:00 開場・12:30
2回目・18:30 開場・18:00

チケット発売所◎プラットチケットセンター
TEL・0532-39-3090 <http://toyohashi-at.jp>